県立図書館だより

令和３年６月　　青森県立図書館報 40 号

デジタルアーカイブから

『青森営林局の森林鉄道』（1937）※ AI による自動彩色
（https://www.plib.pref.aomori.lg.jp/top/digital/cont/t0823_11.html）

日本初の森林鉄道として 1909 年に開通した津軽森林鉄道は、木材輸送量の減少に伴い 1970 年に廃止。かつては東北における林業の一大拠点として青森・岩手・宮城の三県を管轄下に置いた青森営林局も、1999 年に秋田営林局との統合により東北森林管理局青森分局となった後 2004 年に廃止され、現在は同局青森事務所が設置されている。

目　　次

デジタルアーカイブから	1
特別展「北村小松生誕 120 年特別展」	2
システム更新休館期間の変更について（お知らせ）	3
図書館等職員向け研修	4
参考郷土・児童室から	５～８
ご存じですか？この資料 郷土資料の紹介	9
ようこそ文学館へ！ 近代文学館資料の紹介	10
カウンターからひとこと	11

青森県近代文学館

北村小松生誕 120 年特別展

青森県近代文学館では、令和３年７月 10 日（土）から９月 12 日（日）まで、企画展示室において「北村小松生誕 120 年特別展」を開催します。

北村小松（きたむら・こまつ）は 1901（明治 34）年、八戸町（現・八戸市）に生まれ、1919（大正８）年に県立八戸中学校を卒業し、慶應義塾大学予科に入学します。大学在学中から戯曲、脚本を発表し、卒業後は松竹蒲田撮影所に入社して映画脚本と戯曲を並行して手掛けます。1927（昭和２）年には戯曲集『猿から貰つた柿の種』を刊行、昭和６年には、日本初の本格的トーキー「マダムと女房」の原作脚本を担当しました。「マダムと女房」は雑誌「キネマ旬報」の人気映画年間ベストテンで第１位を獲得します。

昭和４年頃からは小説も多く発表し、昭和７年には近代を生きる女性の姿を描き出した「限りなき鋪道」を、昭和 16 年には、原子爆弾についての話題が登場する少年科学小説「火」を新聞に連載します。戦後には、「空とぶ円ばん」に代表されるＳＦ作品のほか、ユーモア小説『糞坊主』や日本映画界の歴史を振り返った自伝的長編小説『銀幕』など、様々なジャンルの小説を発表しました。

少年の頃からの趣味である模型飛行機づくりの他、カメラ、レコード、自動車、社交ダンスなどハイカラな趣味を持ち、昭和 11 年には愛車のダットサンで東京八戸間を走破したこともありました。生誕 120 年という節目に当たり、「モダンボーイ」と呼ばれた多才な作家・北村小松の足跡と素顔に迫ります。

○期　間　令和３年７月１０日（土）～９月１２日（日）
午前９時～午後５時　［７月１０日（土）１０時開館］　入場無料
※休館日：７月１４日(水)、７月２９日（木)、８月２６日(木)、９月８日(水)

○場　所　青森県近代文学館企画展示室（青森県立図書館２階）

○関連行事　※参加無料　要申込

・第１回文学講座　７月２５日（日）青森県総合社会教育センター大研修室
・第２回文学講座　８月２２日（日）青森県総合社会教育センター大研修室
・日曜講座　９月　５日（日）青森県総合社会教育センター大研修室

※くわしくは、チラシやＨＰをご覧いただくか、電話 017-739-2575 までお問い合わせ下さい。

青森県立図書館情報システム更新に伴う休館期間の変更について

青森県立図書館情報システム更新に伴う休館期間が下記のとおり変更になりました。

休館期間（変更前）：令和3年11月11日（木）～令和3年12月21日（火）

休館期間（変更後）：令和4年1月12日（水）～令和4年2月21日（月）

上記期間中、県立図書館と県近代文学館は休館いたします。

なお、休館期間の変更に伴い、当初開館予定としておりました、**令和3年11月10日（水）及び令和3年12月23日（木）が休館日**となります。

利用者のみなさまにはご迷惑をおかけしますが、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

令和4年1月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

令和4年2月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

年始のため休館　　システム更新のため休館

図書館等職員向け研修

県立図書館では、県内の図書館・公民館図書室等で行われる図書館サービスがよりよいものとなるよう、また、学校図書館が児童・生徒の学びにより役立つよう、市町村立図書館・公民館図書室等及び学校図書館の業務を担当する職員を対象に、グループワークや意見交換などを取り入れた研修を行っています。

新型コロナウイルス感染症拡大の状況を踏まえ、オンライン会議システムを使った研修を行っています。

対面での研修機会は減りましたが、工夫を凝らした研修を企画し、職員の資質向上を図っています。

令和3年度には「図書館地区別（北日本）研修」を実施する予定です。

情報化の進展など図書館に関する最新のテーマや地域における課題について研修し、図書館職員としての力量を高めます。

様々な目的を持って図書館を利用する方々によりよいサービスを提供できるよう、図書館で働く職員は常に勉強し、新しい知識を得る必要があります。また、利用者の様々な要求に応えるため、他の図書館と連携を図ることが必要不可欠となっています。

このため、図書館の業務に関する専門的な知識や技術を得るだけでなく、各図書館等が行っている様々な取組みやサービスについて情報共有や情報交換を行い、お互いの理解を深め、新しい取組みやサービスの充実に生かせるよう支援を行っています。

～　こんなレファレンスがありました　～

【第３５回】

故郷（ふるさと）の話題読み語り

「コロナ禍で、癒し求めてペット飼い。飼育放棄が世相映し出し！　」

昨年６月発行の「図書館だより」第３７号のこのコーナーは、「新型コロナウィルスが世界的に猛威をふるい、日本でも、感染の広がりにともなって、外出や多業種にわたる営業自粛など、生活の大きな変化を求められる 2020 年のスタートとなりました。」

こんな書き出しではじめました。

それから１年、待望のワクチン接種はようやく始まりましたが、現在（2021.5 末）も多くの都道府県に「緊急事態宣言」「まん延防止等重点措置」が適用されていて、「ステイホーム」「在宅勤務」が呼びかけられています。

一日も早く感染が収束し、穏やかに過ごせるよう願う日々です。

今回のご質問は、調べものに関してではなく、館内で行った展示についてです。

何故、今「猫」の本の紹介展示なの？　「猫の日」は、２月２２日だよね。

当館１階一般室内の「企画展示コーナー」で、４月２３日（金）～５月２３日（日）まで『猫好きのための、九十九之猫本』と題して猫に纏わる本の展示紹介をしました。

このような展示は、小説や趣味、仕事の本を借りに、或いは、ニュースや身近で見かけた気になることを調べたい、夢中になれる、面白いもの、何かないか探しにと来館される皆さんに、普段とは違う分野・内容、今、社会で話題になっていることなどを取りあげ、興味・関心を持ってもらいたいと、実施しています。

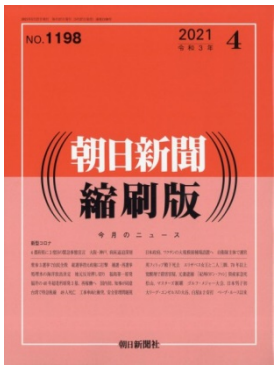
担当者・部署によって特徴があり、また、児童室や参考郷土室では、大小複数の展示をしていますので、是非、閲覧室をぐるりと周ってお楽しみください。

お気に入りの１冊、知らなかった世界があるかもしれません。

さて、「何故、猫か？」ですね。

新型コロナウィルス感染症が拡大するなか、「ステイホーム」「在宅勤務」で、外出が出来ず、多くの人が、自宅で過ごす時間が長くなりました。今までとは異なる生

活で生じる「ストレス」を癒すため、ペットを飼う人が多くなり、「ペットブーム」となった、この１年でした。



ところが一転、ペットの飼育放棄が社会問題となり始めました。

テレビでも取り上げられ、ご覧になった方もいらっしゃるのではないでしょうか。**『朝日新聞』**（東京本社版）２０２１年４月１０日夕刊では、「コロナ下　飼育放棄という現実」「在宅増えペットブーム→「経済苦」で引き取り希望」の見出しで記事が掲載されました。７段抜き、写真入りの大きな記事です。

※　記事の閲覧は、「朝日新聞縮刷版」か、新聞データベース「聞蔵Ⅱ　ビジュアル」（当館利用提供）で、ご覧ください。

「飼育放棄」という見出しですが、その実態には二つの面があるようです。

一つは、度重なる「緊急事態宣言」「まん延防止等重点措置」による経済活動の停滞による「経済的理由」です。収入が減り、エサ代など、ペットにかかるお金が払えなって保護団体に引き取りをしてもらうケースです。

テレビでは、長く一緒に暮らしてきた猫と高齢者との別れも放送されていました。

新型コロナという、個人ではどうしようもない社会的な要因ですが、辛いですね。

いま一つが、人の我がままによる「放棄」です。

朝日新聞の記事では、「飼う前はおとなしかったのに、飼いはじめると、ほえたりおびえたりして気持ちが理解できない。」と、ペットショップで購入してから１週間で保護されたチワワや、ペット不可の住宅だと知りながら飼い始めたといった理由で、引き取られる話が出ています。

ペットは、命あるものです。犬や猫を飼ったことのある方は、世話やしつけの難しさ、大変さを体験しながらも、ペットを家族として、より好きになっていく経験をされていると思います。

そこで、猫をテーマに、猫好きの人たちのエッセイや紹介本、ネコが主人公の話、絵本などを展示して、今回の「ペットブーム」や「飼育放棄」のようなことが起きないように、本物の「猫好き」、「ペット好き」になってもらおうと、思ったわけです。

犬でも良かったのですが、担当スタッフが猫大好き、猫飼いのため、今回は「猫」とさせていただきました。

猫嫌いの方、すみません。

さて先ほど、新聞記事の「気持ちが理解できない。」と、僅か１週間でチワワを引き取ってもらった話をしました。犬と猫の違いはありますが、その飼い主の方に読んで欲しかった文章があります。**『猫大好き』**（東海林さだお/著 文藝春秋 2014）の中のタイトル作品「猫大好き　こんな生き方、許してニャン」です。

隣人にこういう人がいたとする。
わがままである。
気まぐれである。
身勝手である。

と、はじまる文章は、途中、

こうなってくると誰だって、
「いいかげんにしろッ」
と怒鳴りつけることになる。

とつづき、

ところが、この隣人が猫だったらどうなるか。
「そういうところがかわいいんだよね」
と事情が一変する。

と続いていき、岩合光昭さんの「世界ネコ歩き」や、太宰治の『畜犬談』を持ち出して、犬と猫の比較をするなど、猫の魅力を語っていきます。

文豪と呼ばれる方をはじめ、様々なジャンルの方々が書いた「猫大好き」な文章が数多くある中で、スッキリ、ストーンと「猫の魅力」を知ってもらえる、お勧めのエッセイです。是非、お読みください。

展示については、ほかにも質問をいただきました。

なぜ、九十九之猫本？百冊じゃないの？　青森県出身作家の作品、本はないの？

展示の際、99 冊の猫本リストを作成し、自由にお持ち帰り頂くよう置きました。リストには、１００冊目の欄を空欄で付けて、こんな一文を添えました。

本日は、私共「猫町」に足をお運びいただき、誠にありがたき幸せ！猫族一同に相成り替わりまして、厚く御礼申し上げます。

さて、「あの書が無い！」「この名作を抜かすなぞ！」と、皆々様の想いは多々お有りかとは存じまするが、数多ある「猫本」、お目見えの栄をいただけるのは濱の真砂の一粒二粒。此処に並びたる九十九の猫本が、百の目出度き目録と成りますよう、皆様ご推挙の一書を加えていただきますよう、御願い奉ります。

（口上　猫町総代）

展示のタイトルは、九十九之猫本としましたが、実際には２００冊以上の本を準備し、借りられたら補充をして、常に９９冊を展示していました。コロナ下でのペットブーム以前から、猫ブームが続いていて、正に、数多ある「猫本」、紹介しきれるものではありません。せめて、皆さんのお薦め「猫本」１冊を加え、リストとしていただければと「九十九之猫本」とさせて頂いた次第です。

勿論、青森県出身作家の本も、「九十九之猫本」リストに入っているものをはじめ、何点も展示しましたが、早々に、借りて頂いたようで、改めて何冊か紹介します。

寺山修司：寺山が猫好きだったかどうかは定かではありません。寺山の実験映画、幻の第一作（１回だけ上映され、フィルムは現存していません。）『猫学　Catlogy』は、とても残虐に猫を扱った作品だった※と見た人の談があります。

※　**『寺山修司の迷宮世界』**（洋泉社 MOOK 2013　p.41）

ともあれ、寺山作品の多くに、猫が登場します。

『寺山修司少女詩集』　（寺山修司/著 角川書店 1981）

『猫の航海日誌』　（寺山修司/著 新 書 館 1977）

『猫の館』（寺山修司/文 猫の手帖/編 たざわ書房 1979）

「アンチック・カードの世界」とサブタイトルが付けられたこの本は、猫の写真・イラストと、所々に現れる猫の詩で構成されていますが、巻末のライナーノートが秀逸。

「けむり」という名の、ほかに何一つ手掛かりのない猫を、探すという設定が明かされ、音楽、電話帳、小説、詩、映画と探っていくというもの。９４ページでは、「文学の中の猫ベストテン」が選ばれています。皆さんの猫ベストテンを選んでから、ご覧ください。

『ふしあわせという名の猫』（寺山修司/著 新書館 1970）

初版の表紙カバーは、宇野亜喜良さんでしたが、新装版では、女性の写真に変更になっています。本文のイラストは、とても素敵な宇野さんの作品のままです。

青森県で「ねこ」と言って、馬場のぼるさんを外すわけにはいきません。

リストでは、『馬場のぼる 猫の世界』（馬場のぼる/著 こぐま社 1986）だけを紹介しましたが、児童室では、「ねねっこ」という「青森県出身の７人の児童作家さんたち」のコーナーを設置していて、馬場さんワールドになっています。

ご来館の際には、是非一度、児童室を訪ねてください。

他にも長部日出雄さんの**『いつか見た夢』**（津軽書房 1976）などに所収されている「家なき猫たち」や、竹内俊吉元知事**『雁かへる日 竹内俊吉遺稿集』**（竹内俊吉遺稿集編纂委員会 1987）の「わが猫の記」などもあります。この「わが猫の記」には、「チャペ」と呼ばれた猫の話が出てきます。60 代以上の方であれば、飼っていた、或いは近所のチャペと呼ばれていた猫、いませんでしたか。「ちゃぺ」は小さいく愛らしいという意味の津軽弁で、飼い猫の愛称としても使われていました。猫は、愛らしいのです。大好きになってください。

●　レファレンス申込み及び問い合わせ先　●
青森県立図書館　参考・郷土室　電話 017-729-4311　FAX017-762-1757
電子メール　sanko@plib.pref.aomori.lg.jp

「森林鉄道」は、森林から伐採した木材を搬出するために設けられた産業用の鉄道です。一部では客車も扱い、沿線住民の移動手段としても使われていました。

大部分は昭和４０年代までにその役割を終え廃止されていますが、現在もその遺構が残っており、見学できるものもあります。

今回は、青森県の森林鉄道に関する資料をご紹介します。

『津軽森林鉄道』（西北地域県民局編　2020）

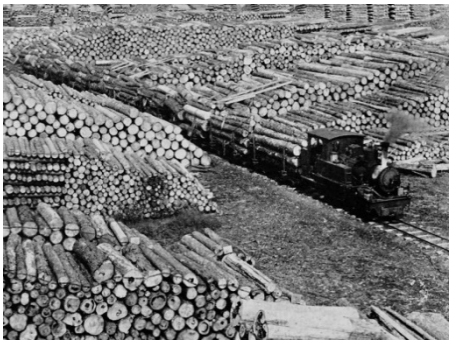
津軽森林鉄道は、特産である青森ヒバの輸送を目的として、動力車で牽引する森林鉄道では日本で最初となる、明治４２（１９０９）年に竣工されました。

津軽半島の広範囲に建設された鉄道の総延長は２８３ｋｍと、日本で建設された全森林鉄道の中では最長となります。

日本初、そして日本最長の津軽森林鉄道は、日本各地の林業発展の歴史を将来に渡って記憶・記録していく「林業遺産」として、２０１７年度に東北地域で初めて認定・登録されました（林業遺産は、これまで全国で４１件が認定されています）。

本資料では、津軽森林鉄道の歴史、当時の関係者による証言、地域の人々とのかかわりや遺構マップなど、ポートフォリオ（総合情報ツール）として分かりやすくまとめられています。

※ なお、この資料は、西北地域県民局地域連携部のウェブサイトからもご覧いただけます。（ＰＤＦ形式）。



『国有林　下巻』（農林省山林局編 1937）に掲載されている津軽森林鉄道

『下北の鉄道と軌道』（祐川 清人著　うそりの風の会　2016）
『下北半島　私の日本地図３』（宮本 常一著　同友館　1967）

下北地区の各種鉄道についてまとめた資料のほか、下北地区における人々の暮らしについて書かれた資料の中に、森林鉄道についても触れられています。

下北地方には、川内森林鉄道と大畑森林鉄道がありました。川内森林鉄道の一部の軌道は、里道を改修したところにそのままレールを敷いたため、地元住民にとって森林鉄道は生活道路のような存在。機関車が大雪で埋もれた際には住民が一緒に除雪を手伝うなど、営林署との協力関係はとても強かったそうです。また、大畑森林鉄道は、薬研・奥薬研温泉といった、古くから知られている温泉郷へ向かう湯治客の重要な交通の便として重宝されていました。

今回ご紹介した資料は、いずれも館外への貸出が可能ですので、どうぞご利用ください。

ようこそ文学館へ！

近代文学館資料の紹介（第 39 回）

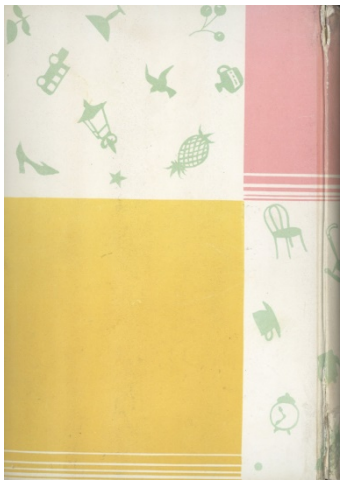
「北村小松生誕 120 年特別展」展示資料から

青森県近代文学館では令和３年７月 10 日から９月 12 日まで「北村小松生誕 120 年特別展」を開催します。今回は展示資料の中から『限りなき鋪道』と北村小松の描いたスケッチをご紹介します。

①『限りなき鋪道』（昭和７年９月、中央公論社）

大正後期から劇作家、映画脚本家として活躍し、確固たる地位を築いていた北村小松は昭和５年に初めての小説集『小市民街』を刊行し、活動の場を小説の世界にも広げていきます。「限りなき鋪道」は「東京日日新聞」等に昭和７年１月 11 日から７月 20 日まで連載したもので、小松にとって新聞小説としては３作目になります。婦人服売り場で働いている女性が女優として映画の世界へ進むという内容で、映画界やモダンな生活にあこがれる読者を魅了しました。連載中より評判は良く、完結後同年９月に中央公論社から刊行されました。なお、この小説の連載の途中に妻・洋子を肺炎のため亡くした小松は、この小説が単行本化された際、巻頭に「洋子の霊に」の字句を掲げました。

今回の特別展では単行本とともに同小説が「大阪毎日新聞」に連載された際の切り抜きと画家・岩田専太郎による挿絵画稿を展示します。



左：『限りなき鋪道』の外函　右：表紙

②北村小松、北欧旅行時のスケッチ（初公開）

北村小松は昭和 33 年にＳＡＳ（スカンジナビヤ航空）から招待されて北欧を訪問しています。

１月 30 日に羽田を出発し、オスロ、ストックホルム、コペンハーゲン（それぞれノルウェー、スウェーデン、デンマークの首都）などを視察し、２月 10 日に帰国しました。カメラとスケッチブックを携え、北欧各国のテレビやラジオ事情について見聞を広める旅でした。本展ではこの旅行の際に小松が描いたスケッチを初公開します。

北村小松のスケッチ
上空から見たペルシャ湾

カウンターからひとこと（第３８回）

今回は、オンライン利用者登録・更新サービスについてご紹介します。

当館では、オンライン利用者登録・更新サービスを開始しました。
従前は、県立図書館の利用者カードを作成するためには、直接県立図書館カウンターに来ていただくか、返信用の封筒を同封のうえ必要書類を郵送していただくかの２通りの方法しかありませんでした。

２０２１年の２月から、利用者カードを作成するためには、県内の図書館・公民館に設置・配布している「オンライン利用者登録セット」を利用して、パソコンやスマートフォン等から新規登録の申請をすることが可能となりました。
電子申請手続き後、県立図書館において登録内容を審査のうえ、おおむね３日程度でお申し込みのメールアドレスへ登録完了のメールが送信されれば、利用者カードが使えるようになります。

申請時に、「オンライン貸出サービス」を一緒に申し込んでいれば、県立図書館に来館することなく、貸出サービスの利用も始められます。

また、新規登録とは別に、利用者の住所や電話番号等の変更もオンラインサービスにより、来館や郵送していただかなくても手続きすることが可能となりました。

「オンライン利用者登録セット」

● オンライン利用者登録･更新サービスの詳細や「オンライン利用者セット」を配布している県内の図書館・公民館等については、県立図書館のホームページをご覧ください。

https://www.plib.pref.aomori.lg.jp/